



3月議会

根本みはる市議の一般質問その①

豊田民報

日本共産党豊田市委員会
豊田市日之出町一六六
Tel: 三四・四七二
毎週一回発行

市駅東口バスターミナル廃止は市民に影響

2月25日、日本共産党の根本みはる市議は、3月市議会の一般質問に立ちました。その1部を紹介します。

豊田市は中心市街地に再開発等の推進を計画・実施し、2017年開業の豊田市駅前通り北地区市街地再開発事業(キタラビル整備)で、第2期中心市街地活性化基本計画は完了となりました。

豊田市駅西口再開発事業(旧松坂屋、T-FACE)からKITARA(キタラ)ビル整備までの5つの再開発事業の総事業費1070億円。市の補助金等の負担額の合計は約334億円、負担割合は約31%です。

Q 駅西口市街地再開発事業からKITARA(キタラ)ビル整備後までの再開発事業の検証結果と、市民への情報公開は。

A 「再開発事業による商業や居住施設をはじめとする様々な取組により都市基盤が整ったことで、目標としていた歩行者通行量や居住人口が増加し、中心市街地における取組は評価できる。KITARA(キタラ)ビル整備後までの検証結果については、第4期中心市街地活性化基本計画において検証し、策定後に公表する。

利用しやすい公共交通への期待

Q 令和3年度の市民意識調査の結果では、施策に対する満足度「商業地に魅力とにぎわいがある」とする評価が、前回に比べてわずかに低下し、一方、「力を入れてほしいと感じているまちづくりの取組」では、「利用しやすい公共交通が整っている」の項目が、期待度の高い結果。この結果から、本市が考えるまちづくりは市民の期待に込めるものと考えるのか。

A 新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため、直ちに評価、判断をすることはできないが、今後とも、市民意識調査の結果だけではなく、様々な意見も踏まえながら、市民の「満足度」が高まるよう、都心空間の活用と再整備の両輪でまちづくりを進めていく。

フルモール化は白紙

Q 都心環境計画の見直しの中で、駅東口バスターミナルを廃止し、駅東口駅前広場を整備する計画は、都心環境計画の停車場線の「フルモール化」を見据えている計画なのか、それとも見直しの検討の中で、フルモール化を見直しの対象とするのか。

A ウォーカーブルで日常的に賑わう公共空間の創出や超高齢社会に適応した交通結節機能の強化に向けて、豊田市駅東口駅前広場の整備を進めるなかで、フルモール化は、議論にはならないと考える。

今と同じ東口が便利

駅東口駅前広場の整備計画の検討のため、1月にバス利用者や周辺交通への影響を調査する「交通実証実験」をおこない、バス利用者へのアンケートをおこなっています。

Q バス乗降場所の移設の実証実験でのアンケートで出されたバス利用者の意見とその検証は。

福島を忘れない! 原発ゼロ! 豊田市民集会

11年目の3月11日

3月11日(金)

午後1時30分

豊田市役所東庁舎 南側集合 中電に要請行動、参合館までパレード

主催: さよなら原発豊田市民行動連絡会

A 東口のバス停利用者に対するアンケートでは、乗車している時間が西口と東口バス停で変わらなかった場合の回答として、「西口が良い」が、約1割、「現在と同じ東口が良い」が、約6割、「東・西口どちらを利用しても良い」が、約3割であり、バスと電車とのダイヤ連携やバス待合所の機能強化等への要望が寄せられている。今後、詳細な検証を進めるとともに、令和4年に予定する実証実験の内容や意見集約の方法などについても精査しつつ、計画に活用できるように取り組む。(続きは次号で)

国際法ふみにじる ウクライナ侵略

ロシアは ただちに 中止・撤退を

一方的に「独立」承認したウクライナ東部地域に軍事侵入したロシア。ウクライナ各地にミサイル攻撃まで始めています。

日本共産党

侵略正当化のプーチン演説

——国際法の根拠なし

プーチン大統領は、ウクライナ東部地域から「要請」をうけた「集団的自衛権」にもとづく行動だと強弁。しかし、ウクライナ東部地域は「独立国」などではありません。いくら国連憲章をもちだしても、国際法違反の侵略行為を正当化することは絶対にできません。

核保有国であることを誇示

——こんな脅しは許されない

ロシアは「最強の核保有国の一つ」と世界を威嚇するプーチン氏。核兵器が怖かったら黙ってロシアの言うことを聞け、という「強盗の論理」です。紛争の平和解決を願う世界諸国民への挑戦であり、決して許されるものではありません。

旧ソ連時代からの覇権主義と対決してきた党として、

国際社会が一致結束して

ロシアの侵略をやめさせることをよびかけます。